

太田市住民協議会（第3回）
議事概要

第1分科会

| | |
|----------|-------------------------------|
| 区分 | 第1分科会 |
| コーディネーター | 構想日本 政策スタッフ 田中 俊 |
| ナビゲーター | 東京都小金井市 ごみ対策課 減量推進係長 大久保泰孝 |
| 日時 | 2018年9月29日(土) 午後2時45分～4時00分 |
| 場所 | 宝泉行政センター 1階 1A研修室 |

主な論点

清掃センターの見学について

- コ) 先日、清掃センターの見学会があったが、いかがだったろうか。大人になってから見学した感想を聞かせてほしい。
- 委) 清掃センターを見学して、特に印象的だったのは、なぜごみを削減しなくてはいけないのかということ。
- ごみを燃やした後の灰は、コンクリートなどに固めたあと山形の最終処分場に持っていくことを知った。最終処分場の埋め立て量にも限りがあるし、お金もかかっており、ごみを減らさなくてはいけないと思った。
- 不燃ごみについても、金属などは安くなってしまう事など処理するにもコストがかかる事がわかった。
- 委) 燃やしている現場を見て、ごみ袋の中でさらにスーパーのビニール袋に入ったごみが多く、袋を破いて中を出して燃やしている所を見たが大変そうであった。地区の役員さんなどが見学して、地区の人に説明したらみんなの意識も変わるのではないかと思う。
- 委) 近くに住んでいるので、清掃センターから出る煙がいつも心配だったが、昔と違いフィルターを使って処理され水蒸気として出されているので、有害なダイオキシンなどの心配はなく安全だと安心した。

ごみ袋の値段について

- コ) ナビゲーターから小金井市のごみ政策の話聞いたが、小金井市と太田市の違いとして、ごみ袋の値段が挙げられる。ごみ袋1Lあたり、小金井市は2円、太田市は0.3円ということである。
- 太田市では週に45Lと30Lを各1回程度出すということであった。小金井市はごみの量が少なく20Lが2回くらいということなので、一概に比較できないが、仮に同じ量のごみを出していたとすると、1ヶ月に500円程度の差が出る。
- 委) 私は新田地区に住んでいるが、合併前は45Lの10枚入を1,500円で販売していたと記憶している。袋の値段が高かったので、ごみを出さないよう気を付けたり工夫して頑張っていた。人間困らないと考えないので、ごみ袋を上げるのも良いと思う。ごみ袋が無料や安ければ、もっとごみは増えるのではないか。
- 委) ごみ袋は安いと思う。安いとごみ袋以外でも使ってしまうし、この値段にごみの処理代金も含まれている事をみんな知らないから、袋の値段を高くして、ごみの処理代も含まれていることをみんなに周知した方がよいと思う。
- 委) 会社の寮に住んでいるので、あまりごみは出さない。ごみ袋の値段が上がれば、物を買う時にその先のごみで出す時のことも考えて買うようになると思う。
- 委) ごみ袋の値段を単純に上げるだけでなく、もう一つ工夫して考えないといけないと思う。
- 委) 値段を変えず、枚数を10枚から5枚に減らしてみたらどうか。

- 委) 値段を上げることは大多数の人が反対するだろうと思う。ごみ袋の値上げには、これからのごみに対する解決策を説明したり、みんなが納得できるメリットの存在が必要だと思う。
- コ) 単純に値段を上げるだけでは納得はしない。それによって、太田市の資源回収がどのように進むか、出し方も出しやすくなるような説明が必要というところだろうか。
- ナ) 小金井市ではごみ袋の値段が高く、いまでも市民からの指摘もあるが、値段を上げるにあたり、平成18年に「ごみ非常事態宣言」を出し市民に値上げをしないといけないということを周知した。日常に密接にかかわることだけに、市民の理解がないと進まないことだと思う。
- 委) ちなみに、ごみ袋の値段1袋150円は、どのように決めたのだろうか。
- 市) ごみ袋の値段は、袋の作製費とほぼ同額である。
- 委) ごみ袋の値段を上げると不法投棄やポイ捨ては増えると思う。小金井市は捨てる場所がないので不法投棄はないかもしれないが、太田市は広い田んぼや畑や川が多く捨てる所が沢山あるのでポイ捨てされてしまう。
- コ) 私は学生時代に神奈川県藤沢市に住んでいたが、ちょうど指定ごみ袋に切り替わった時で、最初は周知が徹底していなくてごみの不法投棄がすごかったことを覚えている。2年くらいするとごみ袋で出すことが生活のサイクルとして当たり前になってきていた。

ごみ減量の意識づくりについて

- 委) 小金井市では「ごみ非常事態宣言」をどのように出したのか。
- ナ) 駅前などで、市長や職員でアナウンスしたり、市内各所に横断幕を出したりした。
- コ) 報道でごみが処理できなくなってしまうと特集して、大変騒がれたと聞いている。その効果もあり市民の意識も変わったのだろうか。
- 委) 私のまわりの人は、群馬県がごみの排出量ワースト1だという事をみんな知らない。小金井市のように、もっとPRすべきだと思う。
- 委) 初めて会議に出て、可燃・不燃のごみの事や、剪定枝を出せること生ごみ処理機のことを知りました。きっと、みんな知らないから分別しないし出し方がわからないのだと思いました。
- 委) 太田市では無理だと思うが本当は個別に収集に行けば変なごみも出せないし、ごみ袋に名前を書けば自分のごみに対する責任を持つようになる。私のまわりの人に聞いても分別なんて全然関係ないという人ばかり。まず、市民が群馬県はごみの排出量が全国ワースト1だから、どうにかなくてはという意識改革が必要。また、この住民会議で話し合った内容を会議だけで終わらせないで、この後市民に周知することが大切。

ごみ回収について

- コ) ごみの回収方法について、小金井市は各家庭の前まで回収に行く個別回収で、だれが出しているかわかってしまうので、ごみの量や出し方などにも気をつけるという効果がある。太田市はステーション収集だが、この点についてはどうか。
- 委) ごみを減らすには分別しなくてはいけないが、資源ごみの回収は2週間に1回なので、家でごみを分別するためのスペースが必要になり置いておく場所がない。子供がいるので牛乳パックやペットボトルがすぐいっぱいになってしまう。家を建てた時に、分別するスペースをつくったが実際は全然足りない。
- 委) 何よりも分別するのに、まず洗って綺麗にしなくてはいけない。洗うということは環境のことも考えなくてはいけないし、洗ったら拭くのにキッチンペーパーや古布などが必要で、またごみになってしまう。リサイクルするために、ごみをごみを呼ぶように溜まってしまう。買わないのが一番いいと思うが買わないと生活できない。便利だからこそごみが出る悪循環がある。
- 委) 家の中に置いておくスペースには限界があるので、収集回数や回収頻度や方法を行政に考えてもらいたい。
- もっと市民が出しやすくすれば便利になるし分別することが、もっと身近なものになると思う。生ごみは臭くなるので早く出したいし、出す側と回収する側で出しやすくなる方法がないものか。

その他

- 委) いつも、このごみはどうやって捨てるのだろうかと「家庭ごみの分け方出し方」の紙を見てもわからない時など、問い合わせようと思っても清掃センターの営業は終わっていて結局もえるごみに出してしまい、とても不便を感じている。これから先のことも考えると子ども達世代は「ごみアプリ」があれば、すぐ調べられて便利になると思うので是非検討してほしい。

第2分科会

| | |
|----------|----------------------------------|
| 区分 | 第2分科会 |
| コーディネーター | 市原市総務部 次長 高澤 良英 |
| ナビゲーター | 環境省環境カウンセラー 環境省3R推進マイスター 片亀 光 |
| 日時 | 2018年9月29日(土) 午後2時45分～4時00分 |
| 場所 | 宝泉行政センター 1階 1B研修室 |

主な論点

ごみ袋の値段について

- 委) インターネットで全国のごみ袋1枚の値段を調べたら、平均38円だった。太田市は15円であり、全国の中でも安い。ナビゲーターで来ている大久保さんのいる小金井市では90円ということであった。ごみ袋の値段だけで解決する問題ではないが、ごみ減量のため、ある程度ごみ袋の値段を上げてもいいのではないかと。
- コ) 個人の負担になるくらいにごみ袋の値段を上げることで、もえるごみの中に入れていた資源ごみを分別するようになるということはある。
- 委) 私は新田地区に住んでいるが、合併前の新田町はごみ袋の値段が高かった。値段を上げてごみが減るなら上げたほうがいいと思う。
- 委) 以前、大泉に住んでいた。指定の袋はなかったので、太田に住み始めた当初は、なぜ指定の袋を使うのかと疑問に思った。最初は袋代を負担に感じ、分別していたがいまでは慣れてしまい分別の意識も薄らいできてしまった。
- 委) 単純に値上げするよりは出し方を考える事も必要。家庭の減量は限界がある。企業などのごみ減量を進めた方がいいのではないかと。
- ナ) ごみ袋の値上げの際には、値段の妥当性などについて住民にしっかり納得してもらうよう、地元説明が必要。一方で、値上げを進めるときは、しっかり値上げして、ごみ減量を意識させる必要もある。意味のある値上げにしないと減量にならない。

ごみステーションの管理について

- 委) 近所のごみステーションに、一度に大量のごみを捨てている家庭がある。プライバシーもあるので中まで確認できないが、ごみ捨てをするときにそれとなく気になってしまう。
- 委) 地区によっては、ごみステーションに見張りを付けているところもあるようだ。
- 委) ごみステーションの見張りについては、地区の人のごみを見ているわけではなく、不法投棄を監視するために見張っているのではないかと。
- コ) 各家の前にごみを出す戸別収集方式を導入している自治体もある。衆人環視の意識がはたらき、どの家は何袋出したか分かってしまうので、ごみが減る傾向にあるといわれている。
- ナ) 社会生活を営む以上は周りを意識することは必要。社会人である以上プライバシーで、すべて困うことはできないし、どの地域でも暮らせない。袋の中まで見るのはどうかと思うが、ごみを出す量の多い少ないというチェック程度はしてもやむを得ないのではないかと。

ごみ減量への意識づくりについて

- 委) この会議に参加するようになってから、ごみを畑に埋めるようになった。
- コ) それは、意識の変化があったということで、この会議の目的でもある。個人がごみに対する意識・関心を持つようにならないと減量は進まない。
- ナ) そもそもなぜごみを減す必要があるかみんなに認識してもらわないといけない。
太田市のごみをなんで減らさないと何が困るのか、どういう問題が起こるのか考え、だから減らさなくてはならないという何か共通の事が見えてくると多くの市民に伝えられると思う。
- 委) ごみの処理に税金が使われている。これを少しでも減らすということが始まりだと思ふ。
- コ) ごみを減らせれば、その分浮いた予算を福祉や教育などほかの事に使える。ごみにお金を使うのはもったいない。5%減らさないと何がおこるのか行政の説明がないと関心のない人は分別、減量しない。

情報の伝え方について

- 委) 広報の減量の記事を見るようになった。広報に5%の減量の記事があった。市民の意識変化のために、ごみを捨てる人の目にふれるよう各ステーションに「5%減量のご協力を」の啓発看板を掲示してはどうか。
- コ) 情報は人によって受け止め方が違うという点には注意したい。
5%減量と素直の思う人もいれば、そもそも何で5%減量しなくてはならないのかとってしまう人もいる。
- 委) 5%って何gなのだろうか。分かりやすさが必要だと思う。例えば、プチトマト2個分のごみを減らしてという方が分かりやすい。
- 委) いちばん減量しなくてはならないところ、いちばん減量して効果のあるところを減量することが効果的である。行政の情報も優先順位をつけて伝えてもらえたらいいと思う。
- 委) 情報の伝え方という点でいうと、若い人はスマホを使用しているので、ごみの出し方についてのアプリがあるといいと思う。
- コ) スマートフォンを持つ人は多いので、今の時代にアプリは有効かもしれない。

清掃センターの見学について

- 委) 清掃センターの見学をして、小学4年生での社会科見学だけではなく、実際に家庭の中でごみを出し、分別をする人を対象に見学会を実施するとよいと思う。
- 委) 私は反対で、もっと小さいうちから分別を教えたらいいと思う。小1、小4、中1などで見学させ、大人もしっかり態度を示すことが必要。
- 委) 大人が分別できていないと子供に教えることができない。子供は親の姿をみて学習するから大人が見学したほうがいいと思う。
- 委) 小学校4年生のとき清掃センターを見学し、家でごみの分別の話をした。母も関心をもった。子供に言われて大人も気づかされることもあるのではないかな。

マイバックについて

- 委) マイバックをみんなが持つようにしたらよい。女性は持っていることが多いが、男性で持っている人は少ない。
- 委) マイバックの持参は重要。スーパーにマイバックを持っていく人でもコンビニにマイバックを持っていく人はいない。コンビニでも統一して2円引いてくれたらマイバックを持っていくと思う。
- 委) コンビニでお鍋を持参しておでんを買っている人を見たことがある。すごいと思った。

その他

- コ) 前回、自宅でたき火をしてはいけないのかという質問が出ていたが、その後、市の方で調べて分かったか。
- 市) 法律上に軽微な量なら焼却してかまわないという記載がある。担当の環境政策課に軽微な量について確認したところ、日常生活において環境を悪化させない程度の範囲ということであった。市では、通報があれば、それは環境を侵しているという解釈なのである。
- 委) ホームセンターで焼却炉を売っていて、なぜ売っているのか不思議だった。
- 市) 焼却炉の設置の基準は明確に決まっていて、ホームセンターで売っている物は焼却炉とみなされないようだ。